

令和4年度第4回小平市社会教育委員の会議要録

と き：令和4年10月20日（木）午前9時30分から午前10時40分

ところ：市役所6階 大会議室

1 出席者

小平市社会教育委員 10人
傍聴者 1人

2 内容

<議題>

資料に基づき、事務局から説明を行った。

- (1) 令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第3回役員会・第3回拡大役員会について（報告）
- (2) 令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第4ブロック研修会について

<事務局報告>

各課・各館より、実施事業等について報告した。

【地域学習支援課】

- (1) 令和4年度非核平和学習事業について（報告）
- (2) 令和4年度青少年健全育成講演会について

【公民館】

- (1) 公民館主催イベント（9月）について（報告）
- (2) 公民館主催イベント（11月）について

【図書館】

- (1) 第4次小平市子ども読書活動推進計画 令和3年度進捗状況について（報告）
- (2) 令和4年度よるのおはなし会について（報告）

<その他>

- (1) （仮称）第二次小平市教育振興基本計画（素案）に係るパブリックコメントについて

3 議題及び事務局報告についての意見・質疑応答

○委員 子ども読書活動推進計画は5年計画のうちの2年目で、様々施策を展開されている。コロナ禍になって様々な貸出のリクエストも増加傾向かと思う。この計画の対象は、児童から青少

年で、恐らく小・中学校がメインの対象と思うが、3番の図書館・地域における読書活動の推進で、ティーンズ世代、高校生も対象になっていると記載があった。10代のティーンズ世代は、図書館利用が多い世代。団塊の世代も多い、この世代が一番多いと聞いたことがある。この中で、No.6の中・高生に関心をひくような企画をしていく、No.9のティーンズ委員会の開催、読書活動の推進、No.12の高校生が必要としていること、役立つことなどの企画、様々ある。このティーンズ世代のニーズの収集は、どのような形で行っているのか、また、どのように広報をしているのか。今あるレファレンスサービスは、充実してきていると思う。IT化していてICタグを埋めている本もある。この調べものなどに合わせて、我々のサービスにニーズ収集機能をつけられればいいと思った。今、行われているニーズ収集、広報について教えてほしい。

○事務局 ティーンズ世代の利用については、中学生の後半ぐらいから高校生については、公共図書館をあまり利用していないという現状がある。ニーズの収集は、一般的な事例等を参考にしながら、事業を進めていく。例えば、なかまちテラスのティーンズ委員会などでも、地元の高校などに声をかけて参加をお願いしたり、コミュニケーションはとってきているが、実際のところはかなり難しい。

○委員 資料No.5の「友・遊こどもまつり」について。これは、全部いわゆるオンラインで、このコロナ禍でどうやって行うか検討をされた結果、こうなったと思うが、内容を見るとやはりリアルが子どもたちにはいいという内容。逆にオンラインだったら人数の制限がないが、この人数は寂しいという気がした。これから希望者が多かったら、現場は限定で残りの人はZoomで見る形もこれから模索していくと思う。その場合に、子どもだけでは、入りづらい。今の子どもは学校で慣れているかもしれないが、親の助けがいると思う。応募を事前に受けて、実施の前日にリマインドをメールで送ってきめ細かくやっ行って行かないと、ハイブリッドは難しい気がする。今後どうしていこうと思っているのか。

○事務局 「友・遊こどもまつり」をオンラインで実施したのは2回目となる。前回、Zoomで参加していただいた方が76人、これはお子様と保護者の方も含まれている。比較的オンラインで入っていただくことは、皆さん抵抗はなくなってきていると感じている。ただ、ご指摘いただいたように、思っていたより参加人数が少なかった点は、大いに反省したい。折り紙については、申込みは3組、合計5人、ドーナツは、申込み13組だったが、体調不良ということで当日のキャンセルがあり10組に減っている。今回は、お母さん世代の方々に口コミでのお声かけに挑戦したが、残念ながら参加者が伸びなかった点については、広報の部分について今後研究していかなければならないと受け止めている。

○委員 公民館として去年から取り組んでいて、去年は七十何人参加されて、今年は多分若年層向けのテーマだったので、少なかったと思う。広報、周知が大事だと思う。まつりはやっていけば見に来てなんかやっていると言って来ると思うが、これは事前申し込みだからそうはいかない。例えば、他市の例で恐縮だが、小金井市で科学の祭典、東京大会をやっている。Zoomは1会議室100人までしか入れないが、あまり来るものだから午前、午後と開催して、もうほぼマックスの200人が参加した。その開催日について、指導部のほうから各小・中学校に全部配った。

せっかく行っているものだから、もったいない感じがした。周知に課題があると思う。

また、Zoomになれていないお子さんもいるので、事前に30分ぐらい早く入室していただいて、使い方も練習した。1回そうやっておけば、リピーターも出てくると思う。

○事務局 「友・遊こどもまつり」に関しては、全小学校にチラシを配付した。それでも少なかったので、追加して児童館などにも配付した。

○委員 申込みのURLをチラシにつけるといいが、そちらもしたのか。

○事務局 QRコードをつけてお配りしたが、残念ながらあまり効果がなかった。

○委員 紙の場合は、QRコード。小金井の場合は、スクールメールでも配信してもらったので、そのときは、PDFでURLを記載して、そこを押せばつながる。その二通りがいいと思う。

ついでに、この視聴回数19、せっかくYouTubeにアップしているから、もう少し期間を延ばしてもいいと思う。

○事務局 YouTubeの配信については、今回は1週間とした。アーカイブは、今回2回目の取組みだったので、今後期間を少しずつ延ばす形で研究していきたいと考えている。

○委員 資料No.3の非核平和学習事業について、私もこの被爆体験者の講演に参加した。参加した小・中学生の発表を聞いて、人前で話すのは緊張すると思ったが、しっかりと発表できていて、よい体験をしたことが伝わった。その体験談を周りの友達にぜひたくさん話してほしいと思う。

ご講演いただいた田中さん、96歳とは思えない。本当にはっきりした口調で分かりやすくご講演いただいて、まずそれにすごくびっくりした。私も今まで何回かお話を聞いたことがあったが、何かさらにパワーアップされた気がして、それが印象に残った。質問もあり、悲しみは乗り越えなければならぬとおっしゃった言葉や、ほかの質問に対しては、美しい言葉は重いし、重い言葉は美しいとおっしゃったことがすごく印象的で、壮絶な体験をなさったからこそその説得力があるんだと本当に深く感じた。また、来年もお会いしたいと思った。今年で終わりとおっしゃっていたということだが、ぜひまた講演を聞きたいと思った。

2点目、資料No.7の子ども読書活動推進計画について、いろいろな角度から子どもたちの読書環境を整えていただいている。5ページの9に、学校図書館協力員の名称を学校司書へ変更を検討していると記載されているが、理由があって名前の変更を検討しているのか。

○事務局 学校図書館協力員について、平成18年から文部科学省の委託事業として、中学校から先進的に配置を始めたもの。一方、学校図書館法で学校司書と名称が規定されたのが平成26年である。小平で先進的に始めた段階では、まだ学校司書が一般的な名称として定着していない段階だったので、学校図書館協力員という名称でスタートした状況がある。後から始めた市の多くは、学校司書や、学校図書館司書といった名称で同じ業務を行っている状況がある。

また、学校図書館協力員の名称だと、学校の現場において、図書館ボランティアと勘違いをされてしまうこともあって、名称の変更をしてほしいという声もあった。

また、学校図書館協力員の名称で、会計年度任用職員の募集を行う際に、名称から業務内容が分かりづらいというご意見があって、採用時に応募者が集まりにくかったり、単純なサポート業務のように思われてしまうこともあったので、名称の変更の検討を進めている状況。

○委員 子ども読書活動推進計画、じっくり読んでもSNSを使うところがあまりない気がした。これからは、そういうことも必要と思う。例えば、朝ドラで又吉さんが古本屋の主人になって、ああいうものが刺激になって、本を読みたいという子どもたちも出るのかなとひそかに期待している。

○事務局 図書館においてもSNSの活用は課題の一つと考えている。ホームページ以外でもそういうチャンネルをもって情報発信に取り組んでいきたいと考えている。この計画を策定したが、令和2年で、その時点ではまだSNSがそこまで浸透していなかったため、この計画にはまだ載っていなかった。

○委員 図書館は、すごく内容を見て頑張っていると感じている。特に、資料No.7の1ページの1番と2番。こちらは何回か会議でも話が出ていたが、若いお母さんたち。多分あまり市役所や社会教育にあまり縁のないような、フルタイムで働いている人はなかなか時間がない。ここがやはり社会教育の入り口なのかなと感じている。公民館の乳幼児の親子で参加できる行事や、そういうものもチラシにして、逆に公民館に来てくれた人には、図書館のほうのとか、それから先ほどこから出ているSNS。若いママさんたちは、スマホで情報はペーパーよりSNSから受けるので、タグづけをすとか連携をもっと深めたら、社会教育に参加してくれる気がした。

それから、「友・遊こどもまつり」について、このご時世でZoomでよく頑張ってやっていると知っている。特に、体験プログラムの料理。普通は料理をつくとやはり食べる場所もあるので、これからは感染症など続くと思うのでハイブリッドで両方残してもらいたい。

それから、平和学習について、被爆体験者の講演において、子どもたちが、今までと違って実際に広島まで出向いて平和学習に参加した後に、どんな質問をしたのか。

○事務局 ブックスタートは、毎回健康診査のところで配布物をパックでお渡ししている。ブックスタートのNPOが作成した動画を紹介するQRコード入りのチラシや図書館の利用案内を差し込んでいる。月に2回ほど開催をしているが、タイミングが合えば、関連のチラシなども差し込むことも可能かと思うので、今後検討したい。

○事務局 ブックスタートのときの子育て支援講座のご紹介は、本当に有効なことだと考えているので、図書館長と連携して工夫を重ねていきたいと思う。

○事務局 広島平和学習の関係で、参加者からは、1件、どうやって悲しみを乗り越えたかというご質問があった。私も初めて参加したが、田中先生のお話を聞いていると、長崎で被爆を体験されたときの情景が思い浮かぶようだった。そのときの心情などを詩にして、語り掛けていただいて、本当にすばらしいと思った。引き続き田中先生に来年度もお願いしたいと思っている。

○委員 私の子どもたちも歴史漫画から入った。先程からSNSが出ているが、本として残したいということがあるなら、小学生に歴史漫画は、すごくいいと思う。

1点、歴史は途中で変わることがあるので、新しい史実が分かって、そのときにフォローをしないと誤って覚えてしまう。変わった段階で、何か差し込むなど更新をお願いしたい。

○事務局 歴史漫画は、昨年7月から夏休みに間に合うように導入を始めて、かなり利用をいただいた。7月の後半に書架を見たら、ほとんど残っていなかった。歴史漫画は、史実が見直さ

れて内容が変わることもある。図書の廃棄の基準は、内容が変わったものについては、廃棄の対象と考えている。代わりに新刊を入れて廃棄していく流れに乗せていきたいと思う。

○委員 特に、中央図書館の方々には、学校教育を様々な形でご支援いただいて、本当に感謝申し上げます。子どもたちの読書離れと言われているが、学校としても問題意識、危機感を持っている。読書週間や、家庭読書の日というものを小学校としては持っている。こういった取組は小平第五小学校に限ったことではないと思う。

また、毎週金曜日には、全校朝読書という取組を行っていて、読み聞かせをボランティアの方に積極的に行っていて、子どもたちが少しでも本や、物語やまたそういった機会に触れることができるように、地域の方にも大変お世話になりながら進めている。そういったところでも、特に図書館の方々には、大変お世話になっている。

今、調べ学習というと、大抵はパソコンで済んでしまうが、本による調べ学習もとても大事で、図書館からもかなり学習内容に合わせた支援を適宜いただいている。これからも、中央図書館や地区図書館、地域のボランティアの方々など、様々な方々と連携をして、子どもたちの豊かな読書活動をどんどん進めていくことができるよう頑張っていきたいと思う。

○委員 資料No.3の非核平和学習事業について、被爆体験者の講演を私も聞かせていただいた。本当に詩に託された思いが伝わってきて、広島で育った者としては、やはり感慨深いというか、感じるものがあつた。その中で、参加された中学生の方、小学生もいたが、報告の中で1点残念に思ったのが、ある男子生徒の声が小さくて、内容がほとんど聞き取れなかった。社会教育とは関係ないが、やはり学校教育のほうで、自分の思いを相手に伝える、プレゼンをするという、それもとても大事なことだと思った。

それから、展示のほうだが、当時は、数か月前にロシアが核兵器の使用について言及したり、全国の高校生が政府に核兵器禁止条約の批准を求める署名活動をしているときだったので、ギャラリーに足を踏み入れて、ああ、平和だなと思ってしまった。何かもっと平和を訴える、非核を訴える、そういう工夫があつてもよかつたと思っている。例えば、図書館で峠三吉さんの人間をかえせという本がある。それから、那須正幹さん。ズッコケ三人組のあの方も被ばくをされていて、絵本がある。そういう絵本とか本を紹介して、隣の図書館で借りてくださいでもいいし、あと平和の誓いというものが広島でも、長崎でもされている。広島では、子どもたちが未来に向かっての発言をして、長崎では、体験者の方が誓いを述べていらっしゃる。やはりそのときのメッセージを伝えるところがあつてもよかつたと思っている。

○事務局 小・中学生の体験の報告について、その直前に事後研修を行うので、報告の仕方も子どもたちに伝えていきたい。

また、展示の工夫について。今ご意見をいただいて、図書館では戦争に関する展示等を行っているので、連携を図っていきたいと思う。

また、平和記念式典に出席して、平和の誓いや、子どもたちの言葉、発信している内容もあるので、そのあたりも展示等広く伝えていけるか考えていきたい。

○委員 被爆体験者の講演の際の子どもたちの発表のことだが、当日事後研修のときに子どもた

ちは初めて聞く。前もって話をしたほうが、子どもたちは一生懸命話してくれるし、すばらしい発表をしてくれるので、事前に話をさせていただいたほうがいいと私の経験から思った。

友・遊は、子どもたちの居場所としてきたが、令和元年度は、来場者611人ということで、毎年かなりの数の子どもたちが遊びに来ている。コロナの問題が起こってから、今はオンラインでも並行して行っていただければと感じた。

子ども読書活動推進計画の9ページ、7番の中で、こだいらとしょかん子ども新聞を年4回発行ということが初めて出たような感じがする。私も、ホームページで見て、とてもいい内容だと思う。子どもたちの編集への参加がどうなのか、どういうところに配布されているのか。

この中にクイズがある。このクイズの答えが、次の号になる。できたら最後のページなどに答えを載せていただければと感じた。

○事務局 友・遊のオンライン並行について、今後会場に来られない方への対応も必要になってくると思うので、研究させていただく。

○事務局 子ども新聞は、コロナ禍になって、図書館の休館をしたときに、来館ができない子どもたちのために職員で何かできないかと考えて始めた企画。ホームページ上に掲載して、紙版のものを図書館の各館のカウンターで配布をしている。あまり手をかけずにやろうとスタートしたもの。

クイズについては、担当者が毎回頭をひねって考えているが、ご意見を担当者へ伝える。

○事務局 1件、ご連絡がある。現在、小平市教育委員会では、令和5年度から10年間を計画期間とする仮称第二次小平市教育振興基本計画の策定を進めている。ここで、本計画の素案を作成して、10月24日から11月23日まで、パブリックコメントを行う予定である。